

☆ 表現をそろえる

次に、体言型表現か用言型表現のどちらかで文を統一とぅいっすることについて学びます。いくつかの事ことがらを並ならべて述のべる文章を書く時、その事ことがらを表す表現に体言型表現と用言型表現を混まぜてしまうと、かまつこう悪い文になってしまったということを感じてもらいたいと思います。

たとえば、次の文を見てください。

ここでは、書類の整理A、お金の計算B、お客様を案内するCといった様々な仕事がある。

A、B、Cという三つのことがらを並べている文になっていますが、AとBが体言型表現なのに、Cだけ「案内する」という用言型になっていますね。このように、体言型表現と用言型表現が混まざっていると、文が散らかって見えるのです。ですから、次のように、Cまで体言型にして、三つのことがら全ての表現を統一するようにしましょう。

ここでは、書類の整理A、お金の計算B、お客様の案内Cといった様々な仕事がある。

いまは、体言的表現でそろえましたが、もちろん逆さかも考えられます。次の文を見てください。

ここでは、書類を整理Aしたり、お金を計算Bしたり、お客様の案内Cと、様々な仕事がある。

ここでは「くたり」という助詞を使って、用言型表現を並べた文を作りました。しかし、Cだけが体言型表現になっています。これもやはり用言型と体言型がままざって良くありませんから、次のように全て用言型表現で統一とぅいっした方が良いわけです。

ここでは、書類を整理Aしたり、お金を計算Bしたり、お客様の案内Cしたりと、様々な仕事がある。

問二 次の文章の傍線部^{ほうせんぶ}では、三つの事がらが並べられていますが、体言型表現と用言型表現が混ざ^まっています。用言型表現になっているところを体言型表現に直して、傍線部全体を書きかえなさい。

この学校では、英語を学ぶための様々な環境^{かんきょう}が整っています。たとえば、常勤の外国人講師、すべて英語で行われる授業、中学二年の夏休みにカナダに短期留学をする、などが挙げられます。